

第42回

社会言語科学学会大会

Program of the 42nd Biannual Meeting of the Japanese Association of Sociolinguistic Sciences



日時 2018.9.22(土)~23(日)

受付開始:22日(土) 9:30~/23日(日)9:30~

場所 広島大学 東広島キャンパス

〒739-0046 広島県東広島市鏡山1丁目3-2

交通

7月豪雨災害により、現在、広島大学までの交通にも影響が出ています。以下のページにて最新情報をご確認のうえ、ご来場ください。
https://www.hiroshima-u.ac.jp/torrentialrain_access

お問い合わせ先

社会言語科学学会研究大会委員会 E-mail: jass-desk@bunken.co.jp http://www.jass.ne.jp/?page_id=49

参加費

会 員:3,000円/非 会 員:5,000円
学生会員:2,000円/学生非会員:4,000円

9月22日(土)

9:30	受付開始〔L棟1階ロビー〕			
10:00	開会			
10:00-12:30	ワークショップ1〔K棟104〕 会話データ分析の教育者・研究者による語りから広げる研究と実践の視野 ―グループ・ディスカッションを通して― 企画責任者:中井 陽子(東京外国語大学) 参加者:真丸 真澄(早稲田大学),大場 美和子(昭和女子大学)	ワークショップ2〔K棟203〕 省略現象から見えてくること ―「磁石」な日本語と「チェーン」な韓国語― 企画責任者:生越 直樹(東京大学) 参加者:尹 盛熙(関西学院大学),金 智賢(宮崎大学),新井 保裕(東洋大学)	ワークショップ3〔L棟102〕 相互行為における指さしの多様性 ―会話分析の視点から― 企画責任者:安井 永子(名古屋大学) 参加者:杉浦 秀行(摂南大学),高梨 克也(京都大学),遠藤 智子(成蹊大学),高田 明(京都大学)	ワークショップ4〔L棟104〕 会話分析をどう学ぶか 企画責任者:平本 毅(京都大学) 参加者:高木 智世(筑波大学),細田 由利(神奈川大学),森田 笑(シンガポール国立大学),林 誠(名古屋大学),増田 将伸(京都産業大学),城 綾実(滋賀県立大学),西阪 仰(千葉大学)
13:35-13:40	開催校ご挨拶〔L棟205〕 小山 正孝(広島大学大学院教育学研究科長・教育学部長)			
13:40-15:10	招待講演〔L棟205〕 言語行為への言語学的接近 ―権利・きもち・非流ちょう性・面白さをめぐって― 【講演者】定延 利之(京都大学大学院文学研究科教授) 【司会】串田 秀也(大阪教育大学)			
15:15-16:00	会長挨拶,大会発表授賞式,総会〔L棟205〕			

16:15-16:45	<セッション1>〔K棟104〕 司会:杉浦 秀行(摂南大学) 日常会話にみられる類像化作用 ―自己の否定的側面に関するスタンス表出の語りから― 合崎 京子(日本学術振興会/立教大学)	<セッション2>〔K棟203〕 司会:宮永 愛子(山口大学) 言語変化と社会的ネットワーク分析の重要性 平野 圭子(北九州市立大学)	<セッション3>〔L棟102〕 司会:船橋 瑞貴(群馬大学) 災害時に必要となる語彙に関する研究 ―「平成28年熊本地震」後1か月の新聞一面データの語彙調査― 津田 智史(宮城教育大学)	<セッション4>〔L棟104〕 司会:重野 裕美(広島経済大学) 気づきにくい学習者/母語話者間のミスコミュニケーション ―V-テミルと韓国語V-boda,タイ語 loon -V-duu,クメール語 sak -V- mè:lとの対照を通じて― 金谷 由美子(大阪大学),POONVONGPRASERT Thanit(大阪大学),BANGSAEN Pichamon(大阪大学),KUY Siemkiang(大阪大学)
16:50-17:20	研究発表(口頭発表) 自閉症スペクトラムの青年の相互行為 ―療育者からの極性疑問文に対する応答能力― 細田 由利(神奈川大学),亀井 恵里子(神奈川大学),David Aline(神奈川大学)	EFLグループ相互行為内でのAcademic Discourse Socialization ―大学グローバル教育プログラムにおける言語学的エスノグラフィー研究から― 抽冬 紘和(関西大学)	わかりやすさを目的とした文章における句読点と改行の多寡 ―「ステージ」レイアウトリニューアル前後の比較分析から― 岩崎 拓也(一橋大学)	中国人日本語学習者のライティングの学習状況と学習意識に関する調査 余 文龍(京都大学)
17:25-17:55	高齢者にできることに関する知識はいかに更新されるか ―認知症高齢者施設における利用者と職員の相互行為― 細馬 宏通(滋賀県立大学)	多言語話者高校生の言語認識と「戦略的CS」 ―「場」の期待と逸脱― 佐藤 美奈子(京都大学)	創造的慣習性,あるいは慣習的創造性 ―誤表記にみる慣習とせめぎ合う文法の姿― 吉川 正人(慶應義塾大学)	ドイツにおける難民へのドイツ語学習支援活動 荒木 萌(慶應義塾大学)
18:00-18:30	三味線の稽古場面における師匠と習い手の相互行為 ―マルチモーダルな指導における発話形式の使い分け― 名塩 征史(静岡大学)	米国大統領ドナルド・トランプ氏の演説における、非正規若者移民に対する差別的な談話ストラテジーの分析 ―メキシコのベニャ・ニエト大統領の移民に対する談話ストラテジーと比較して― 廣瀬 由奈(大阪大学)	言語文化的視点から見た花の詩的表現についての考察 ―花ことばのレトリックを中心に― 段 静宜(関西外国語大学)	

懇親会

9月23日(日)

9:30	受付開始〔L棟1階ロビー〕			
10:00-11:15	ポスター発表 <ポスター発表1>〔L棟2階ホール,L棟204〕 司会:伊藤 翼斗(京都工芸繊維大学) P-01 「感謝しない場面」の分析による「感謝」の研究 ―「物をあげる」という場面に注目して― 岸本 健太(関西学院大学) 計12件			
11:20-12:35	<ポスター発表2>〔L棟2階ホール,L棟204〕 司会:伊藤 翼斗(京都工芸繊維大学) P-13 偶然の出会いにみられる対面会話開始部の様相 岡村 佳奈(東京大学) 計13件			
12:35-13:35	JASSカフェ〔L棟109〕			
13:45-14:15	<招待発表1>〔K棟104〕 司会:山本 真理(関西学院大学) 消滅危機言語・宮古口のエスノグラフィー ―学校と集落のフィールドワーク調査の記録― 藤田ラウンド 幸世(国際基督教大学)	<招待発表2>〔K棟203〕 司会:鯨井 綾希(上越教育大学) 海を渡った広島方言 ―海外日系移民社会における方言の継承と変容― 中東 靖恵(岡山大学)	<招待発表3>〔L棟102〕 司会:遠藤 智子(成蹊大学) PythonとTwitterAPIによるビッグデータ事始め 荒川 歩(武蔵野美術大学)	
14:20-14:50	<セッション5>〔K棟104〕 司会:山本 真理(関西学院大学) 人はなぜことわざを使うのか ―コーパス日本語会話における位置とはたらきの分析から― 谷畑 美咲(関西学院大学)	<セッション6>〔K棟203〕 司会:鯨井 綾希(上越教育大学) 日本語とアラビア語エジプト方言における不満表明に関する考察 ―不満表明と応答からなる不満談話シーケンスに着目して― ASAD Marina Bahaa(立命館大学)	<セッション7>〔L棟102〕 司会:遠藤 智子(成蹊大学) 連鎖全体への反応として使用される「へー」の働き 関 玲(筑波大学)	<セッション8>〔L棟104〕 司会:平田 未季(秋田大学) 「身振り」に男女差はあるのか? ―中国語母語話者の不同意表明を例にして― 趙 東玲(金沢大学)
14:55-15:25	研究発表(口頭発表) 会話に現れる架空の物品に対する認識の共有 ―テーブルトークロールプレイングゲームにおける参加者の発話と行動に着目して― 井上 雄太(一橋大学)	日本語母語場面と日中接触場面における「断り」言語行動の考察 ―「察し合い」の談話展開とそこに見る配慮表現― 高 揚(筑波大学)	フィラー「まあ」の中心的機能は何か ―日常会話と大学講義の用例から― 柳澤 浩哉(広島大学),馮 文彦(広島大学)	『商標言語学』 ―商標の類似性判断における音韻論及び認知言語学的アプローチ― 五所 万実(慶應義塾大学)
15:30-16:00	UNOにおけるルール交渉 ―参加者間の知識差と相互行為的「チーム」形成― 中村 香苗(淡江大学)	話題転換タイプによる話題転換表現の使い分け ―日中両言語の雑談会話の話題開始部において― 朱 怡潔(東北大学)	呼びかけの重ね用法出現の要因 ―フィクションの話し言葉という可能性― 東出 朋(国立釜慶大学校)	
16:05-16:35	誰が物を渡すのか? ―多人数会話において物の渡し手が決まる過程の微視的分析― 門田 圭祐(早稲田大学),牧野 遼作(早稲田大学),山本 敦(早稲田大学),古山 宣洋(早稲田大学)	日本語の雑談における物語の後続文脈への展開方法 張 未未(早稲田大学)	韓国語の尊敬形「-si-」の不使用方法に関する考察 ―ドラマの台詞をデータとして― 金 アラン(上智大学)	